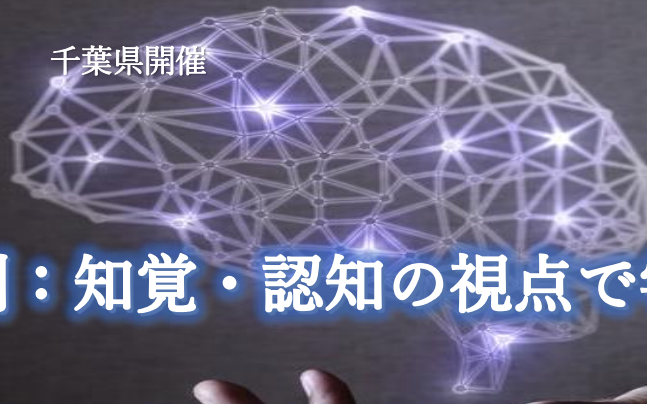


開催日：2019年4月21日（日曜日） 千葉県開催



## 歩行と転倒：知覚・認知の視点で学ぶ

講師：樋口 貴広先生（首都大学東京人間健康科学研究科）

主催：(株)関東企画コスモリハビリテーションサービス

### 第1部：「歩行の知覚・認知制御：転倒への示唆」

樋口貴広（首都大学東京人間健康科学研究科） 9時30分～14時00分（途中休憩あり）予定

身体機能・運動機能の高い高齢者でさえも、歩行中に転倒することがあります。この経験的事実は、身体機能・運動機能の維持だけで転倒を予防できるわけではないことを示唆しています。本講演では、歩行中の動的バランス維持に必要な知覚・認知機能の働きについて解説します。状況判断、バランス調整の知覚的側面、注意・デュアルタスクなど、知覚・認知の様々な機能から転倒予防を考える意義について解説します。特に講演では、慣れていない環境では普段通りの行動ができない現象について説明します。こうした現象は、慣れた屋内環境では自律的に歩行をしている人が、屋外で転倒してしまう現象の理解を深めてくれます。

### 第2部：「転倒予防のための病院内の取り組み：障害物回避の視点から」

室井大佑（亀田リハビリテーション病院・首都大学東京人間健康科学研究科） 14時00分～16時00分予定

セラピストとして、患者さんの安全を守るために、「転倒」に向き合うことは必須と言えます。転倒を考えるためには、多角的な視点が必要であり、患者さんの歩行中の動的な姿勢制御の評価だけでなく、様々な変化する環境情報を処理し、適切な歩行調整ができているかどうかを評価しなければなりません。しかしながら、このような評価方法や転倒予防策は確立されていません。本講演では、転倒予防のための病院内での取り組みを、世界的な病院評価機構である Joint Commission International (JCI) の視点を含めて紹介します。特に本講演では、障害物回避行動に着目することで、患者さんの環境知覚や歩行調整を評価する試みについて重点的に説明します。心理学研究で広く利用されている、「隙間通過課題」を患者さんに適応させることで、体幹の回旋を中心とした適応的な歩行の特徴や、通過する前の判断の特徴など、多くの情報を与えてくれます。症例検討は、脳卒中片麻痺者や半側空間無視者を中心として、その特有の障害物回避行動や判断能力について、動画を交えてわかりやすく解説します。また、明日から利用できる、セラピストや患者の主観と客観が反映された評価バッテリーについて紹介します。

【日程】 2019年4月21日（日） 受付9時～ セミナー9時30分～16時予定

【会場】 野田病院リハビリ室（千葉県野田市）

車利用：病院無料駐車場有 電車利用：東武アーバンパークライン「川間駅」よりタクシー約10分

【参加費】：各 10,800 円（税込） 定員 50 名（先着）

【申し込み先】 ①ホームページから <http://www.cosmo-reha.com>（コスモリハビリで検索）

②申し込み・問い合わせメール：[csmseminar.kantokikaku@gmail.com](mailto:csmseminar.kantokikaku@gmail.com)

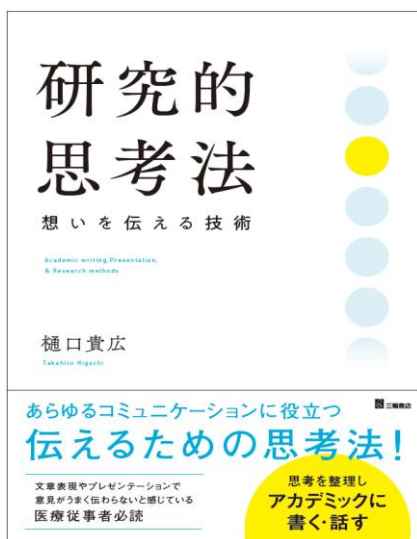
③同封の FAX 用紙に必要事項を記入後 ⇒ 0471-29-8155 ～ FAX

## 会場：野田病院 2階リハビリ室

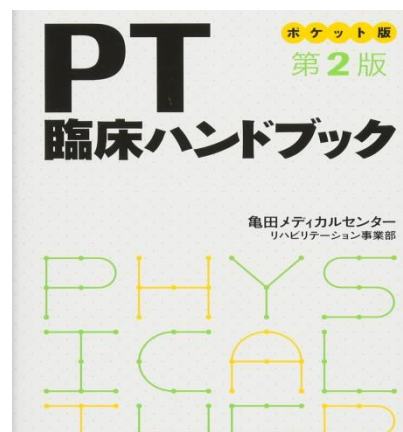
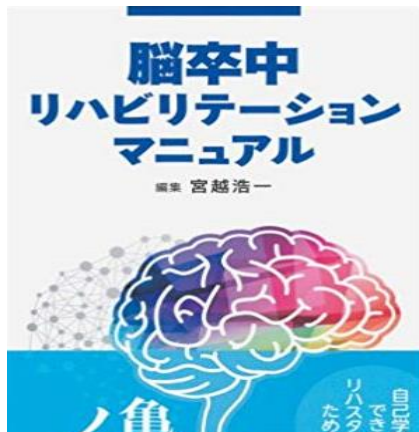
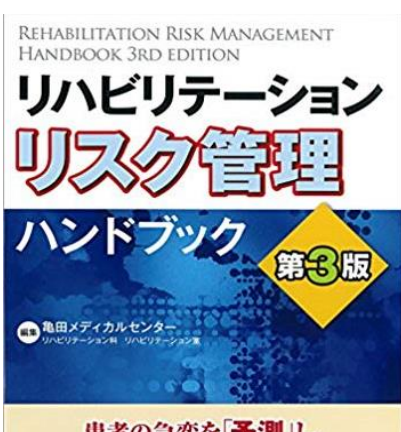


会場所在地：千葉県野田市中里 1554-1

### 【樋口貴広先生 執筆著書のご紹介】 ※研究的思考法は2月中旬ごろの発売予定となります。



### 【室井大佑先生 執筆著書のご紹介】



主催：(株)関東企画コスモリハビリテーションサービス